放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　6年　3月　30日　　事業所名；多機能障がい児通所支援　オリーブのねっこ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	7		日によってスペースが狭い時がある。車いすの置き場や子どもに横になってもらう位置を考え工夫しながらフロアを使ってもらっている。	環境整備をしながら、少しでも広くスペースが使えるように工夫していく。
	2	職員の配置数は適切である	4	2	3	ゆとりのない人数で支援の提供をしなければならない日もあるが、スタッフ同士で声を掛け合って支援している。	支援スタッフが適正な人数配置になるよう努めていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	3		トイレに手すりが設置されていないので、２人介助も検討している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	2		職員会議で業務改善について話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	2	第三者評価は行っていない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			外部研修やオンラインで参加できるもの等、積極的に参加を促している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成	9				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	2			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	1	担当が中心となり、立案したものを、職員全体に会議や朝礼、報告書等を用いて共有し、実践している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	2			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	2		平日は時間が少なく課題の実践、支援はスタッフの個人差がある場合があるが、休日や長期休みには、細やかではないかもしれないが、課題を決められて取り組めるよう会議等で話し合って決めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	9				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			朝礼で行うようにしている。また、会議の　場でも分担や共有事項に関して全員で確認をするようにしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	5	4		スタッフに就労時間の差や送迎の戻りの時間の差により困難な時があるため、朝礼で必要に応じて行うようにしている。	支援終了後に行うことが難しいので、朝礼で振り返り、話し合い共有できるようにしっかりと取り組んでいく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2		毎日記録を残せるように担当制にしており、記録は残せている。また全員がいつでも閲覧できるようにしている。	記録はきちんと出来ているので、会議や朝礼で振り返り、改善に繋がるようにしていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	2			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7	2			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	9			各学校等ホームページの確認や保護者からの連絡にて確認するとともに、送迎時など学校の先生からもしっかりと情報を聞きとるよう	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3		必要に応じて行うようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	2		必要があれば情報提供できるようにしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2		カンファレンスに参加したり、研修を受講するなどし、情報を共有したり学びを深めたりしている。また、会議の場で報告しあい、共有できるようにしている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	5		重心型の事業所ということもあり、気軽には計画しづらいが、まずは無理のない範囲から長期休みなどに計画立案していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6	3		副管理者が代表して参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		送迎時に出来るだけ保護者と話をするように心がけている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	2	5	2	支援中に気になったことなどは、状況や対応を保護者に伝えている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			利用契約時にご説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9			すぐに返答できないものは持ち帰り、スタッフで話し合い、共有してから返答している。保護者の都合や状況に合わせてライン等を活用し対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	2	2	同法人内の親子イベント等はお知らせをして参加を募ったり、イベントへの支援はできることは行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			おたよりを発行したり、必要な連絡は書面やラインを活用して行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	9				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	3	同法人内のベントには希望者は参加している。	交流する機会を計画していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	3		適宜、勉強会をしている。 希望があれば閲覧できるようにしている。	マニュアル類を置く場所を決め、確認できるようにしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	2		定期的に訓練をしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9				
	41	どのような場合にやむを得す身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	3		身体拘束について、それにあたるかどうか職員間で検討している。 様々なケースを想定し、共有している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9			アレルギーの有無の確認をし、提供している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			インシデント報告等は随時行い、記録・再発防止に努めている。	